

日本血液学会平成30年度事業報告

研究支援事業

学術集会の開催

第79回日本血液学会学術集会 プログラム概要

会期 平成29(2017)年10月20日(金)～22日(日)

会場 東京国際フォーラム

会長 木崎 昌弘(埼玉医科大学総合医療センター 血液内科 教授)

テーマ Innovation and Creation: Advances in Hematology for the Next Generation

参加者数 6,818 名

プログラム

会長講演 1 題

特別講演 3 題 (Special Lecture、ASH Special Lecture、EHA Special Lecture)

JSH 学会賞受賞講演 1 題

教育講演 54 演題 (うち 36 演題を再演)

シンポジウム 15 テーマ (70 題) (Presidential Symposium、JSH-ASH Joint Symposium、JSH-EHA Joint Symposium、SHI シンポジウム を含む)

パネルディスカッション 1 テーマ (7 題) (Asian Joint Panel Discussion)

プレナリー 6 題

一般口演 551 題 (内 4 題、演題取り下げ)

Excellent Case Report 20 題

一般ポスター 617 題 (内 12 題、演題取り下げ)

SETP (Scientific Exchange Training Program) 4 テーマ (8 題)

コーポレートセミナー ランチョンセミナー 42 セミナー (43 題)

モーニングセミナー 23 セミナー (26 題)

Industry Session 3 セミナー (3 題)

公開シンポジウム

国際

・第9回国際シンポジウム (The 9th JSH International Symposium in Kyoto)

会長 北村俊雄

日時 2018年7月27日(金)～28日(土)

会場 グランドプリンスホテル京都(京都府京都市)

テーマ Epigenetic abnormalities and therapies of hematologic malignancies

参加登録者数: 259名(海外招聘演者 18名含む)

(シンポジウム参加国: 8カ国/台湾・中国・韓国・シンガポール・アメリカ・スイス・イギリス・フランス)

・第79回日本血液学会学術集会におけるASH/EHA Special Lecture/ASH-JSH Joint Symposium/EHA-JSH Joint Symposium/Asian Joint Session

ASH Special Lecture

Kenneth C. Anderson “New insights into therapeutic targets in Multiple Myeloma”

ASH-JSH Joint Symposium <New insights into AML biology>

Scott A. Armstrong “Targeting epigenetic mechanisms to reverse leukemia stem cell gene expression”

John E. Dick “Leukemia stem cells play a central role in therapy failure and disease recurrence in human AML”

Shigeru Chiba “TET dioxygenase activity in the development of acute myeloid leukemia”

Atsushi Koya “Functional role of DNMT3A mutation in acute myeloid leukemia”

EHA Special Lecture

Pieter Sonneveld “New therapeutic developments in Multiple Myeloma”

EHA-JSH Joint Symposium <Novel treatment strategy for MM using novel drugs in combination with immune modulation>

Henk M. Lokhorst “Clinical application of Daratumumab for myeloma”

Hermann Einsele “Basic and clinical research on PD-1/PD-L1 in Multiple Myeloma”

Yusuke Furukawa “Modulation of innate immunity as a mechanism of lenalidomide maintenance for Multiple Myeloma”

Ken Ohmine “Clinical development of CAR-T therapy for Multiple Myeloma”

Asian Joint Panel Discussion <MDS/MPN: Progress of basic and clinical research in Asia>

台湾: Ken-Hong Lim “B cell immune profiles in essential thrombocythemia”

タイ: Noppadol Siritanaratkul “Incidence and characteristics of polycythemia Vera, essential thrombocythemia and primary myelofibrosis in Thailand: A patient cohort in the tertiary care hospital”

中国: Lanping Xu “Patient-reported outcomes in patients with chronic myeloid leukemia receiving tyrosine kinase-inhibitor therapy in China”

韓国: Jun Ho Jang “Diagnosis and treatment of bone marrow failure syndromes”

インド: Hara Prasad Pati “Spectrum & flowcytometry study in primary MDS”

シンガポール: Thuan Heng Charles Chuah “Asian CML: How different is it from the West?”

日本: Yasuhito Nanya “Advances in clinical and basic researches in MDS”

• 23rd EHA Congress in StockholmにおけるEHA-JSH Joint Symposium

“Designing clinical scale production of iPSC-derived platelets by a novel flow concept”

Koji Eto (CiRA, Kyoto University, Japan)

“Resolving hematopoiesis by fate mapping and polylox barcoding”

Hans-Reimer Rodewald (German Cancer Research Center)

• 若手研究者への23rd EHA Congress Travel Award 支援

演題が採択された以下の5名にトラベルアワードとして20万円を本学会より補助。

越智 陽太郎 (京都大学大学院医学研究科血液腫瘍内科)

Stag2 regulates hematopoietic differentiation and self-renewal

木村 俊介 (東京大学小児科)

Characterization of pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia with DNA methylation status

宮内 将 (東京大学大学院医学系研究科血液・腫瘍病態学)

Patient-derived induced pluripotent stem cells revealed calcium/calmodulin dependent protein kinase 2 as a potential therapeutic target of myelofibrosis

前川 隆彰 (防衛医科大学校内科学講座)

Anti-SLAMF7 antibody suppresses fibrocyte differentiation as a potent therapeutic agent for myelofibrosis

七條 敬文 (京都大学ウイルス・再生医科学研究所)

New assessment index of clinical transformation from follicular lymphoma to diffuse large B-cell lymphoma in the rituximab era

• EHA-JSH Collaborative Exchange Program 2018

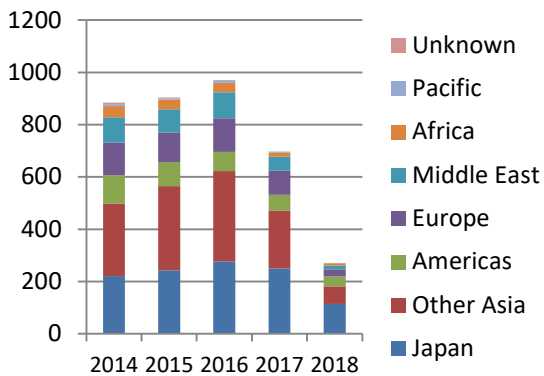
日本からヨーロッパへの派遣者には100万円を本学会より補助。

【JSH】有馬浩史 (京都大学大学院医学研究科血液・腫瘍内科)

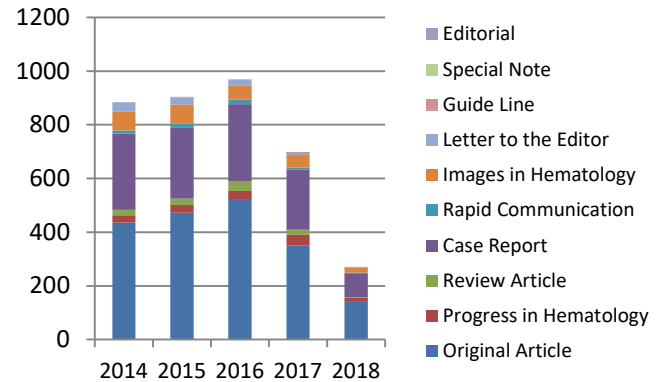
派遣先: Department of Genetics of B Cells and Lymphomas, The FIRC (Italian Foundation for Cancer Research), Institute of Molecular Oncology Foundation, Milan, Italy

【EHA】受賞者なし

《地域別投稿数》

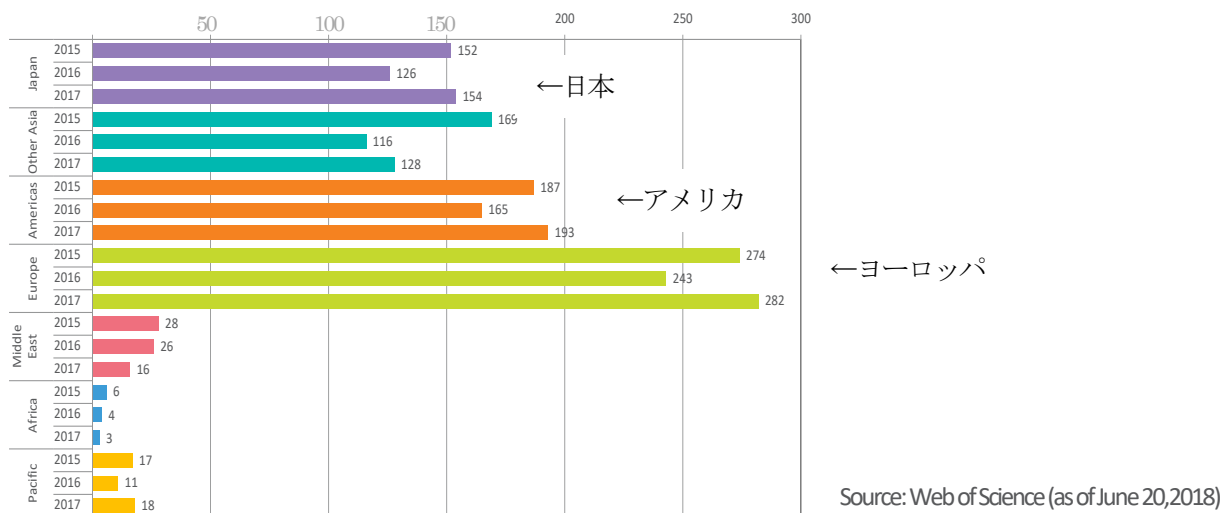


《論文種別投稿数》



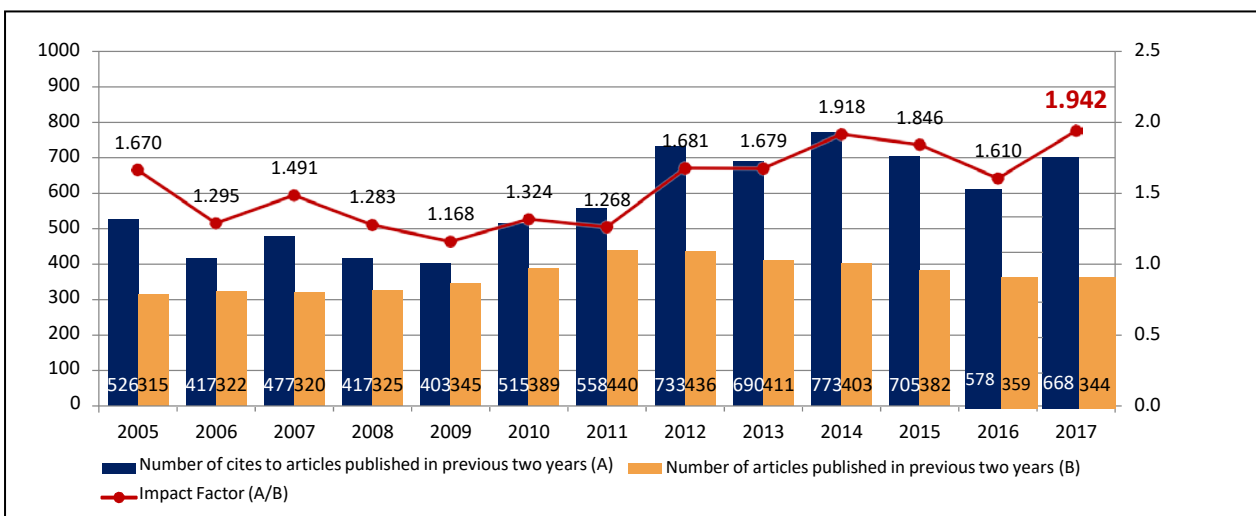
投稿数：2014年884件, 2015年904件, 2016年970件, 2017年697件, 2018年271件 (6/30現在)

《2015-2017年に出版されたIJHの地域別引用状況(2017)》



《Impact Factor》

$$\frac{\text{Cites in 2017 to articles published in: 2015} + 2016 = 373}{\text{Number of articles published in: 2015} = 171 + 2016 = 173} = 1.942$$



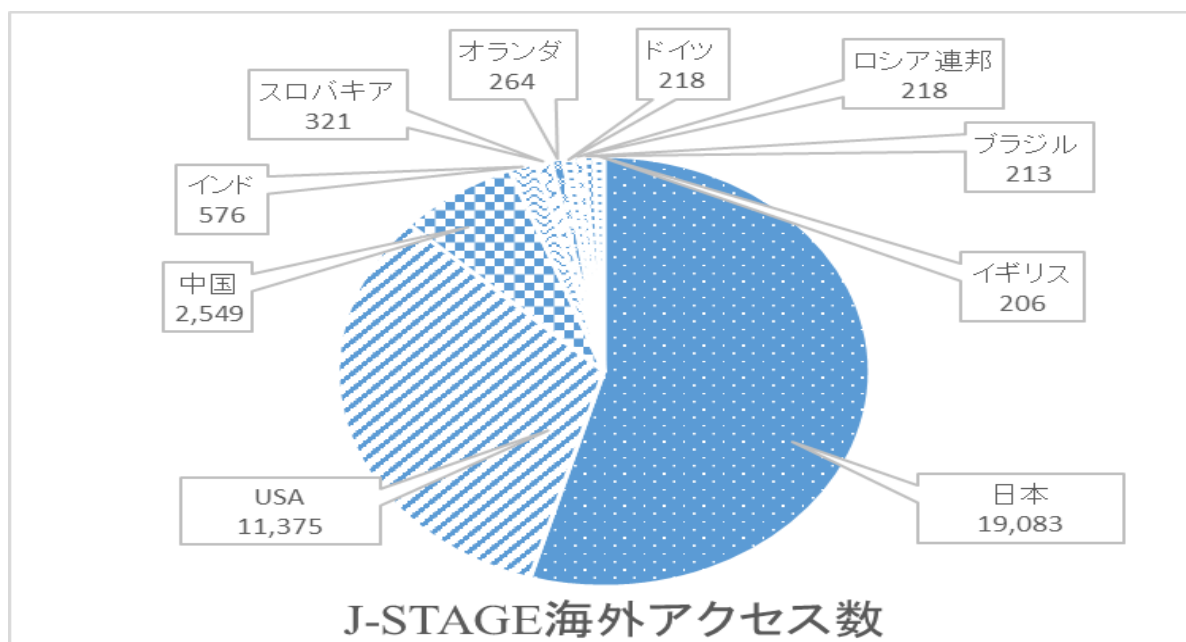
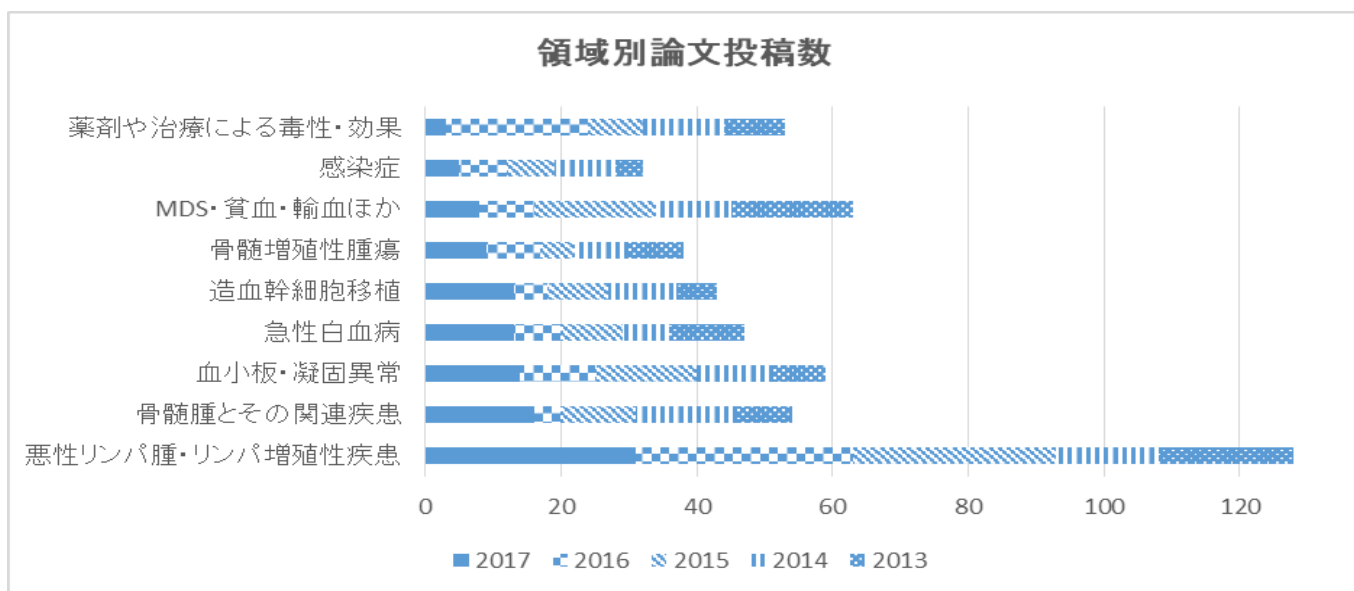
「臨床血液」誌 《2018.9.7 現在》

2017年発刊状況

巻/号	頁数	シボ	総説	臨床研究	症例	短報	計	
58/1	94	0	0	0	7	1	8	
58/2	92	0	1	0	9	1	11	
58/3	82	0	0	0	7	1	8	
58/4	156	0	9	1	6	1	17	
58/5	156	0	10	1	4	1	16	
58/6	146	6	0	2	8	0	16	
58/7	176	12	2	1	6	1	22	
58/8	206	14	2	1	5	1	23	
58/9	444	第79回学術集会 プログラム・抄録号						
58/10	830	第79回学術集会 教育講演号 (46本)						
58/11	172	5	0	4	6	0	15	
58/12	188	0	1	1	9	1	12	
計	2,742	37	25	11	67	8	148	

2018年発刊状況

巻/号	頁数	シボ	総説	臨床研究	症例	短報	計	
59/1	134	0	2	2	8	0	12	
59/2	132	0	4	3	5	2	14	
59/3	98	0	0	0	9	2	11	
59/4	108	0	3	2	7	0	12	
59/5	194	4	9	0	3	2	18	
59/6	176	4	11	1	3	2	21	
59/7	145	8	1	2	5	1	17	
59/8	146	11	1	0	4	1	17	
59/9		第80回学術集会 プログラム・抄録号						
59/10		第80回学術集会 教育講演号 (65本)						
59/11		0	5	1	6	1	13	
59/12		0	0	0	9	1	10	
計		27	36	11	59	12	145	



◆採用日数平均◆

55 巻	81.8 日
56 巻	86.4 日
57 巻	80.5 日
58 巻	85.6 日

◆年度別採用率◆

	投稿数	採用数	採用率
2015 年	112	93	83.0%
2016 年	104	92	88.5%
2017 年	118	86	72.8%

《連載コーナー》

- ・Picture in Clinical Hematology
- ・Introduce My Article
- ・Take Me Out to the Congress Abroad
- ・りんけつクイズ
- ・Rinketsu Dictionary

❀TOPレビューワー2017<延べ査読数による>❀ (敬称略)

1 位	大森 司	7 位	内田直之	13 位	鈴宮淳司
2 位	得平道英		原田結花		富田章裕
3 位	石澤賢一		中世古知昭		森毅彦
	新井文子		後藤明彦		佐々木純
	柴山浩彦	11 位	大橋一輝		
	長谷川大輔	12 位	犬飼岳史		

❀論文アクセス数ランキング (2017年1月~12月) ❀

(敬称略)

筆頭著者	論文名		アクセス数
藤村 欣吾	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2012年版《オープンアクセス》	53巻	38,835
宮川 義隆	妊娠合併特発性血小板減少性紫斑病診療の参照ガイド《オープンアクセス》	55巻	35,066
宮崎 香奈	CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	56巻	2,918
高松 博幸	次世代シークエンサーによる多発性骨髄腫微小残存病変検出の臨床的意義	56巻	2,877
片山 俊夫	肺炎球菌に汚染された血小板濃厚液の輸血直後に発症した敗血症性ショックと横紋筋融解症の致死的合併例	44巻	2,624
小澤 孝幸	Rituximabが著効したTAFRO症候群と思われるCastleman病類似症例	55巻	2,472
原田 結花	慢性骨髄単球性白血病 (CMML)	57巻	2,243
池亀 和博	血縁HLA半合致移植 (ハプロ移植) の現状と今後	56巻	2,156
正木 康史	新規疾患 —TAFRO 症候群の診断基準・重症度分類・治療指針—	57巻	2,107
島田 和之	血管内大細胞型B細胞リンパ腫研究の現状と今後の展開	56巻	1,664

❀論文PDFダウンロード数ランキング (2017年1月~12月) ❀

(敬称略)

筆頭著者	論文名		DL数
宮川 義隆	妊娠合併特発性血小板減少性紫斑病診療の参照ガイド《オープンアクセス》	55巻	32,728
藤村 欣吾	成人特発性血小板減少性紫斑病治療の参照ガイド 2012年版《オープンアクセス》	53巻	24,599
薄井 紀子	リンパ性白血病 (急性・慢性)	53巻	930
宮崎 幸大	リツキシマブ併用化学療法後、長期にわたりFDG-PET偽陽性を示した濾胞性リンパ腫	53巻	445
	第1回日本血液学会九州地方会	53巻	438
岡田 恵子	リコンビナントトロンボモジュリンが奏効した臍帯血移植後微小血管障害	53巻	375
柏木 浩和	特発性血小板減少性紫斑病	53巻	320
正木 康史	新規疾患 —TAFRO 症候群の診断基準・重症度分類・治療指針—	57巻	247
島田 恒幸	発症後に潰瘍性大腸炎を併発した再生不良性貧血	53巻	237
黒澤 彩子	第一寛解期急性骨髄性白血病に対する治療選択	53巻	226

診 療

1. 要望書関連

1) 要望書の提出

①医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議への要望

- ・真性多血症、および本態性血小板血症に対するロペグインターフェロン α -2b
- ・トレチノイン（寛解後療法への適応拡大）

②厚生労働省への要望書

- ・エロツズマブ 規定の投与速度の変更：「用法及び用量に関連する使用上の注意」の改訂

2) 他学会からの共同提出依頼—意見書提出

- ・サリドマイドの未治療多発性骨髄腫に係る「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」への共同申請（骨髄腫学会）
- ・ブリナツモマブ製剤の携帯型精密輸液ポンプ適応に関する要望（日本小児血液・がん学会）
- ・NUDT15 遺伝子多型検査への早期保険適用に係る要望書（日本小児血液・がん学会）
- ・ボサコナゾールの早期承認に対する要望書（日本化学療法学会）

3) 要望書提出依頼に対し、審議基準の作成

利益相反、海外における薬事承認の有無、開発状況、提出による効果、など

2. 医師会治験促進センターへの学会推薦

- ・MEK 阻害剤トラメチニブの造血幹細胞移植後 GVHD に対する適応拡大（再提出）

3. 外部機関への意見提出

1) 厚生労働省・医薬・生活衛生局

- ・キイトルーダの最適使用推進ガイドライン：古典的ホジキンリンパ腫の効能追加について

2) 日本医師会・保険適用検討委員会へ新医薬品の保険適用について

- ・ダラザレックス点滴静注（再発又は難治性の多発性骨髄腫）

4. 診療関連情報の広報

1) 「ソリリス使用時の注意・対応事項」注意喚起文書を作成（メール・HP）。

2) 末梢血幹細胞採取に関する注意起文書を作成（メール・HP）。

5. 内保連関係

- ・DPCの高度の医療技術の評価について—血液領域の確認
- ・血液関連委員会の加盟委員会の見直し—3学会が新規加盟
- ・2018年度診療報酬改訂提案について総括
- ・2020年度診療報酬改訂に向けたアンケートの回答

6. その他

1) 臨床血液誌投稿のガイドラインに対する意見提出

- ・成人慢性好中球減少症診療の参照ガイド

2) 関節リウマチ(RA)治療中の患者に発生するリンパ増殖性疾患(MTX-LPD)について

- ・3学会（リウマチ学会、病理学会、日本血液学会）による意見交換会を継続

3) 日本医師会・疑義解釈委員会からの供給停止予定品目についての確認

造血器腫瘍ガイドライン

1. 造血器腫瘍診療ガイドライン 第2版作成

2. 造血器腫瘍診療ガイドライン 英語解説版のIJHへの掲載

3. NCCN ガイドライン和訳作業

序文

2001年にヒトの全ゲノムが初めて解読されて以来、ゲノム解読技術の飛躍的発展とともに、ゲノム情報に基づいた医療が提唱、実践されてきた。米国では、2015年に当時のオバマ大統領が、一般教書演説において、Precision medicine initiativeを提唱し、ゲノム情報に基づいたがん医療の実現に向けて多額の国家予算を投じることが宣言した。実際、米国の臨床の現場では、数百に及ぶがん関連遺伝子の異常を網羅的に解析し、各患者の癌細胞がもつ変異に応じて治療方針を決定することが日常診療の一部となっている。2017年11月に、324遺伝子の遺伝子異常を網羅的に解析するがん遺伝子パネル検査（F1CDx: FoundationOne CDx）が米国のFood and Drug Administration（FDA）で承認され、Center for Medicare and Medicaid Services（CMS）から保険償還についても承認されたことは記憶に新しい。血液腫瘍学の分野においても、World Health Organization（WHO）、米国のNational Comprehensive Cancer Network（NCCN）、欧州のEuropean Leukemia Net（ELN）が提唱する診断・治療指針には、多くのがんゲノム情報が掲載され、ゲノム情報なしに適切な診断・治療を行うことが困難になりつつある。我が国では、臨床上有用な遺伝子異常を検出するための検査の一部が、保険診療として実施できないのが現状であり、がんゲノム医療実現に向けての体制構築が喫緊の課題である。日本血液学会では2017年8月にゲノム医療部会を発足し、この度「造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン」を作成した。本ガイドラインは、造血器腫瘍の臨床において有用性の高い遺伝子異常を現時点でのエビデンスに基づいて選別し、遺伝子パネル検査の基盤となる情報を提供するとともに、遺伝子パネル検査を含めたゲノム検査を活用すべき病態やその臨床的有用性について記載したものである。このガイドラインが、造血器腫瘍に対する遺伝子パネル検査を含めたゲノム検査の基本的な考え方を提供し、血液学臨床におけるprecision medicineの発展に寄与することを期待する。

このガイドラインについて >>
 (ガイドラインの見方など各種説明)

造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン >>

研究助成

目的：血液学における基礎・臨床の研究（血液疾患患者の利益となる研究）を進展させることを目的として当学会が実施する研究支援事業。

ピアレビュー（血液学分野の複数の研究者による審査）により、血液学の発展に貢献する研究に対し助成を行う。

助成件数：約100件

助成金額：1件当たり20万円～200万円

対象：血液学の臨床的・基礎的研究を対象とします。なお、薬剤を用いた介入研究は、対象外とします。

応募資格：日本血液学会会員で、上記の研究が可能な施設に所属する医師及び研究者（研究グループを除く）各講座(又は診療科)単位で申請できるのは、1課題とします。

申請期間：平成30年6月1日（金）～6月25日（月）

審査：審査委員並びに研究助成委員会にて審議を行った。

協賛：セルジーン（株）、ノバルティス ファーマ（株）、ブリストル・マイヤーズ スクイズ（株）
 （アイウエオ順）

応募・採択状況

	2017年	2018年
申請数	181件 基礎領域 48件 臨床領域 132件	156件 基礎領域 49件 臨床領域 107件
採択数	136件 基礎領域 33件 臨床領域 103件	140件 基礎領域 42件 臨床領域 98件

学術・統計調査事業

学術・統計調査

新 TARGET

観察研究 1

「日本国内における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象とした観察研究」

登録期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

観察期間：平成 30 年 3 月 31 日まで

登録症例数：506 例（予定登録数 500 例）（達成率 101.2%）

主要評価項目：CML 確定診断日から 5 年時点における全生存率(OS)

観察研究 2

「日本国内における 2nd または 3rd line イマチニブ既治療慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象とした観察研究」

登録期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

登録症例数：98 例（予定登録数 110 例）（達成率 89.1%）

観察期間：平成 28 年 3 月 31 日まで

主要評価項目：2nd line 以降の薬剤投与開始日から 3 年時点における全生存率(OS)

今後の予定

集計結果を論文化

多発性骨髄腫観察研究

「日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究（JSH-MM-15）」

目的：日本における骨髄腫関連疾患の予後ならびに予後因子について調査すること

デザイン：前向きコホート研究

対象：2016 年 1 月 1 日以降に、骨髄腫関連疾患のうちいずれかを新規に診断した患者。

目標症例数：1,100 例

主な評価項目：

全生存率、無増悪生存率、Time to next treatment、Treatment Free Interval、奏効率

登録期間 3 年（2016 年 5 月 1 日より開始）

観察期間 最終登録例の登録日から 3 年後まで

研究代表者：飯田 真介

進捗状況（2018 年 9 月 4 日時点）

倫理委員会承認施設：74 施設

登録症例数：1026 例

骨髄増殖性腫瘍観察研究

「日本における骨髄増殖性腫瘍の予後に関する大規模多施設前向き観察研究」

目的：

わが国における骨髄増殖性腫瘍のうち真性多血症、原発性骨髄線維症、本態性血小板血症の生存率、イベント発生率、およびその発 生に影響を及ぼすリスク因子、治療実態について調査をすること。

デザイン：多施設共同前向きコホート研究

対象：

WHO 分類 2018 年改訂案の診断基準に基づいて新たに MPN（PV、ET、PMF）と診断された患者

目標症例：1,500 例 (ET が 900 例、PV が 500 例、PMF が 100 例)

主要評価項目：全生存率

検体保存：ゲノム DNA の保存

登録期間：5 年 (2016 年 12 月 1 日より開始)

観察期間：10 年

研究代表者：順天堂大学 医学研究科 血液内科 小松 則夫

進捗状況 (2018 年 9 月 4 日時点)：

倫理委員会承認施設：48 施設

登録症例数：137 例

真性多血症(PV)、本態性血小板血症(ET)の後方視的研究

「日本における真性多血症および本態性血小板血症患者の臨床像、生命予後および
イベントリスクに関する多施設後方視的研究」

目的：

わが国における骨髄増殖性腫瘍のうち真性多血症、本態性血小板血症患者の臨床像、実臨床で治療実態を把握し、生存率、イベント発生率、およびその発症に影響を及ぼしたと考えられるリスク因子を調査すること。

デザイン：多施設共同後ろ向き観察研究

対象：WHO 分類 2008 もしくは WHO 分類 2016 の診断基準をみたした PV および ET 患者

目標症例：PV 1,500 例、ET 1,000 例

主要評価項目：全生存率

研究期間：倫理委員会承認～2019 年 9 月 30 日

研究代表者：順天堂大学 医学研究科 血液内科 小松 則夫

血液疾患登録事業

プロトコール：

第 5.0 版：2017 年 5 月 29 日

登録状況

日本血液学会血液疾患症例登録 (日血)、国立病院機構血液疾患登録 (国立)、日本小児血液・がん学会疾患登録 (小児) に登録された症例の合計を集計

2017 年 1 月 1 日～2017 年 12 月 31 日に新たに診断され、2018 年 5 月 31 日までに登録された症例が対象 (第 80 回総会でパネル展示)

団体名	施設数	登録数
日本血液学会 (JSH)	377	36155
日本小児血液・がん学会 (JSPHO)	145	1947
国立病院機構 (NHO)	22	1997
計	544	40100

人材育成事業

専門医認定制度

人材育成事業

専門医認定制度

- 1) 専門医等取得状況 平成 30 年 8 月末日現在
専門医 3,958 名
指導医 1,862 名
研修施設 499 施設

- 2) 専門医認定試験

平成 30 年度 (第 28 回) 血液専門医認定試験

日 時 平成 30 年 6 月 24 日 (日) 13:00～15:00

会 場 東京国際フォーラム ホール B 5 (東京都)

受験者数 208名(欠席1名) 合格者173名・不合格者34名(合格率83.17%)

3) 新専門医制度への対応

- ・「新血液専門医プログラム」の作成および公開
- ・新専門医制度要件による指導医・専門研修認定施設・専門研修教育施設の申請受付開始
- ・血液専門医システム準備WGにおいて、症例登録システムの構築等を検討

教育

1. 第11回「研修医(初期・後期)のための血液学セミナー」実施報告

開催形態：日本血液学会の主催として実施

日時：平成30年7月7日(土) - 7月8日(日)

* 7月6日(金)はサテライトイブニングプログラム

会場：大津プリンスホテル

対象：研修医(前期, 後期を含める)+オブザーバー

参加人員：86名+1名 [118名+2名だったが、豪雨災害のため]

講師・座長：47名 [48名だったが豪雨災害のため]

講習時間・形態：

全体講義：レクチャー2コマ、ケーススタディー7コマ

グループスタディー：4コマ

モーニングレクチャー：2コマ

ランチョンセミナー：1コマ

* 一部の講師を入れ替え(次回も講師交替を進める方針)

参加者アンケート結果：満足度平均 86.4点

2. 第7回若手臨床血液学セミナーについて(以下は計画進行中)

ノバルティス、協和発酵キリン、二社主催にて開催予定。

日時：平成30年11月2日(土) - 11月3日(日)

会場：東京コンファレンスセンター品川

参加人員：151名(小児コース46名、内科コース105名)

* 内容は第6回とほぼ同様。小児コースあり。

* 検鏡実習は成人、小児と分かれて実施。

* 日本血液学会は、「協力」という立場。

3. 血液専門医テキスト改訂3版 作成

編集委員確定および編集会議開催(2018年4月14日)

執筆担当、査読委員、問題検討委員選定

内容の確定、執筆者への原稿作成依頼済み(締めきり9月20日)

* 専門医認定委員会との共同作業

普及啓発事業

広報

1. 日本血液学会ニュース(メール便)定期便および臨時便の発行

① 平成30年度(平成29年9月~平成30年8月)の発行回数

定期便12回

臨時便23回：学術集会、JSH国際シンポジウム、専門医試験受験情報、研修医のための血液学セミナー、若手臨床血液学セミナー、MPN/MM観察研究、日本学術振興会賞、育志賞の募集案内、など

② 上記①以外のニュース便を配信

・2017年9月：第5回定時社員総会のご案内(インターネットによる議決権行使)

・2018年1月：「造血器腫瘍診療ガイドライン第2版」パブリックコメント募集

・2018年5月：日本血液学会研究助成事業 実施のご案内

- ・2018年5月：「造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン（WEB版）」公開のお知らせ

③ 海外へのプロモーション

EHA, ASH Congressにて取得した海外研究者／関係者のEメールアドレス宛に、JSH国際シンポジウムや学術集会の案内を配信

- 配信数：テキスト版・HTML版を合わせ6,748件（2018年9月号での会員宛配信実数）。昨年配信数（6,657件）より91件増加。

2. 日本血液学会ホームページ（HP）

- ・造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン2018年版（Web）を公開
- ・新専門医制度の案内
- ・日本血液学会 プライバシーポリシーを公開
- ・学術集会抄録集アーカイブ 第79回を追加

賞 等

1. 2018年度日本血液学会賞

嶋 緑倫（奈良県立医科大学小児科教授）

2. 奨励賞（第79回日本血液学会学術集会発表）：副賞各30万円

※所属は発表当時

宇仁 暢大（東京大学 血液・腫瘍内科）

ASXL1 mutation induces MDS with derepression of p16Ink4a via aberrant histone modification by PRC1

加藤 浩貴（東北大学 血液免疫病学分野）

Bach1 and Bach2 orchestrate erythro-myeloid differentiation responding to environmental changes

木村 俊介（東京大学小児科／広島大学 小児科）

Genetic and epigenetic landscape of pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia (T-ALL)

久保田 翔（熊本大学 国際先端医学研究機構）

RUNX2 super enhancer promotes the development of blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm

木暮 泰寛（京都大学 腫瘍生物学講座）

Novel mechanism of post-transcriptional regulation of PD-L1 expression by 3'-UTR binding proteins

佐々木 悠（横浜市立大学 免疫学）

BCR-ABL-induced IL-6 inhibits IRF8 expression and DC development in neighboring progenitors in mice

藤澤 学（筑波大学 医学医療系血液内科）

Activation of RHOA-VAV1 signaling in angioimmunoblastic T-cell lymphoma

細川 晃平（金沢大学 血液内科）

Molecular mechanisms of clonal hematopoiesis by <I>SLIT1</I>-mutant HSC clones in acquired aplastic anemia

宮脇 恒太（九州大学 病態修復内科学）

Establishment of the novel prognostic model of DLBCL based on microenvironment signature

山内 拓司（Department of Medicine, Brigham and Womens Hospital, Boston, Massachusetts, USA／九州大学病院 血液・腫瘍内科）

Targeting nuclear RNA metabolic pathways for the treatment of acute myeloid leukemia

3. 白血病研究基金助成（学会推薦）

藤澤 学（筑波大学 医学医療系 血液内科）

宮脇 恒太（九州大学 病態修復内科学）

4. 外郭団体各賞

- ・推薦 日本学術振興会賞、日本医学会総会奨励賞
- ・推薦募集 日本学術振興会育志賞、日本医師会医学研究奨励賞、慶應医学賞、持田記念学術賞、文部科学大臣表彰

倫理

1. 倫理委員会規定に関して

倫理委員会の所掌する主な内容を以下のとおりとし、現在対応する規定を整備中。

- 1) 学会主導の臨床研究、および学会が保有する情報を用いて会員が行う臨床研究に関する、学会としての倫理審査
 - 2) 会員が関与する臨床、医学研究に不適切な事柄があった場合の学会としての対応。
 - 3) 会員に対する倫理教育
 - 4) その他、理事会から指示された事項
2. 学術集会（総会、地方会）、臨床血液、IJH での発表、投稿に際して倫理的な基準の統一。
- 症例報告については、原則として施設の倫理委員会の承認は不要。ただし、希少疾患等の個人が特定できる可能性がある症例については、患者の了解を得る必要がある。
 - 臨床研究については、各施設の倫理委員会の承認を得る。
 - 個別の案件に関して、例えば症例報告の件数が多い場合、適応外使用などの対応は、プログラム委員会や雑誌編集委員会が対応する。
3. 個人情報保護法の改正に基づく倫理の取り扱いの注意点の会員への広報

COI

1. 規定、申告書の改訂および日血 HP 利益相反ページの更新 <2018年2月>

- ・日本血液学会 医学系研究の利益相反(COI)に関する共通指針
- ・日本血液学会 講演会および機関誌における利益相反(COI)の開示
- ・Disclosure of Conflict of Interest (COI) in Conferences and/or Official Journals of the Japanese Society of Hematology (JSH) [英語版]
- ・役員等の COI 自己申告書
- ・講演会などにおける COI 自己申告書
- ・COI Self-Report Form in Conferences [英語版]

2. COI 自己申告の実施

- ・『造血器腫瘍診療ガイドライン第2版(2018年版)』における委員全員の利益相反開示
 - ・本学会主催の学術集会発表者(共同演者を含む)
 - ・本学会機関誌(臨床血液、IJH)で発表を行う著者全員。
 - ・本学会役員(理事長、理事、監事)、学術集会会長・次期会長、国際シンポジウム会長、次期国際シンポジウム会長、各種委員会のすべての委員長/副委員長、特定の委員会委員など)
- ※学術集会一般演題発表および役員申告については、2018年度分よりウェブシステムからの申請に切り替え

3. 役員 COI 自己申告書について、COI 委員長並びに副委員長による調査を実施